

〔倭名類聚抄十六〕薑 膳夫經云、空腹勿食生薑、居良反、和名久禮乃波之  
 乾薑 養性要集云、乾薑一名定薑、和名保之波之加美

〔箋注倭名類聚抄四〕醫心方引同說文作薑、云禦溼之菜也、昌平本下總本有和名二字、按本草和

名、乾薑生薑並舉、唯云和名久禮乃波之加美、不載阿奈波之加美、保之波之加美之名、醫心方、生薑

和名都知波之加美、中 養性要集無傳本、按隋書唐書皆有張湛養生要集十卷、則性恐生之訛、然

草類昌蒲條引作性、本草和名引亦皆作性、則源君所見從心無疑、今不徑改本草和名引、定薑作定

姜、昌平本有和名二字、按生薑、見大膳職內膳司式、干薑見民部省式、稚薑見內膳司式、種薑見民部

省式、本草圖經云、薑苗高二三尺、葉似箭竹葉而長、兩々相對、苗青根黃、無花實、秋採根、於長流水洗

過、日曬爲乾薑、李時珍曰、五月生苗、如初生嫩蘆而葉稍濶、葉亦辛香、秋社前後新芽頓長、如列指狀

〔類聚名義抄八〕乾薑 ホシハシカミ

〔易林本節用集加服〕干薑 キヤウ

〔和爾雅七〕乾薑 又云

〔類聚名義抄八〕薑 音姜、クレノハシカミ、俗云、アハナハシカミ、生薑 和名同上

〔下學集草下〕生薑 シヤウガ

〔易林本節用集之〕生薑 シヤウキヤウ

〔和爾雅七〕薑 同 子薑 初生爲子 母薑 宿根爲

〔日本釋名草下〕薑 ハシカミ、ハシアカミ 端赤也、ハシアカミ 略せり、はしかみは莖と根の端赤し、

〔東雅十三〕薑 ハシカミ 神武天皇の御歌に、垣本に殖しハシカミクチヒクとよみ給ひしを、日

本紀釋に、ハシカミは薑也、薑をもて口に銜みぬれば、ヒビクこと甚しきをいふと見えたり、倭名

鈔には、薑讀てクレノハシカミといふと註せり、凡物の名、クレをもて呼びしは、皆これ吳國より